

松尾芭蕉句碑

講堂の北東、開山堂に続く石段の左側には、17世紀の著名な俳人松尾芭蕉の記念碑があります。芭蕉は独自の軽みと呼ばれる様式の俳句作品で有名です。1688年の唐招提寺訪問中に、芭蕉は鑑真像に祈りを捧げ、句を詠みました。その句はこの記念碑に刻まれています。

若葉して御目の雫拭はばや

後年、芭蕉は仏教の信者になりました。咲く蓮は、根を張る泥とは離れているように、愛着を持たないことを支持し、他の俳句の達人に対して、作品を作る際、表面的であることを避けるようすすめています。